

平安時代
女性の着物十二単



清少納言

ようこそ



百人一首の世界へ

殷富門院大輔

見せばやな雄島の海人の袖だにも
濡れにぞ濡れし色は変はらず

「百人一首」は、藤原定家が100人の歌人の歌を1首ずつ選んでまとめたもの。飛鳥時代～鎌倉時代までの和歌である。

百人一首は100首のうち恋歌が最もタク
43首ある。次に多いのは四季で32首ある。

春 6首
夏 4首
秋 16首
冬 6首

四季 32首のうち
「春」「夏」「秋」「冬」の
言葉を含む和歌を
数える。

「春」 2首
「夏」 3首
「秋」 11首
「冬」 1首

秋が「タレい」!
「紅葉の秋」
「読書の秋」
のように昔の人々
にも人気の秋。

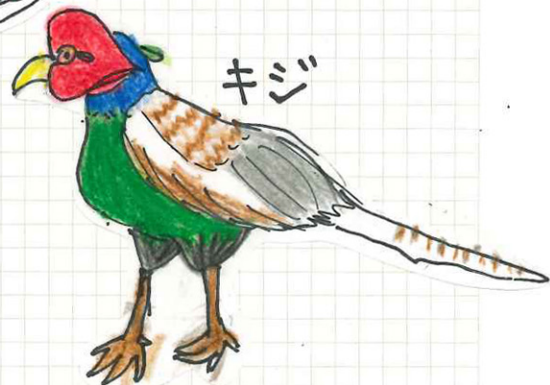
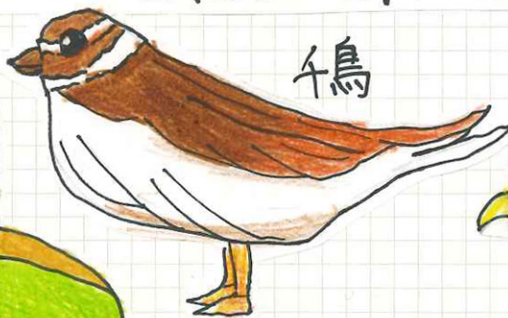
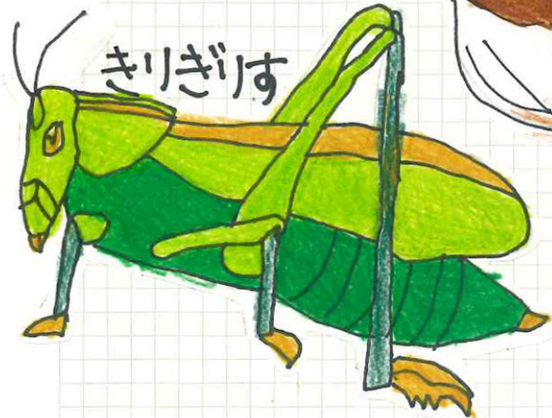


生き物の歌を数える。→ 8首ありました。

鳥 5首 (山鳥(キジ)、かささぎ、千鳥、ほととぎす、鳥)

鹿 2首

キリギリス 1首 (秋に鳴く虫、コオロギのこと)



次のページから四季より1首ずつ選んで和歌の
世界を紹介します。



下の句



上の句



桃の
節句は
平安時代
から。



君がため
春の野に出でて
若菜摘む
わが衣手に
雪は降りつつ

古語辞典で調べる

「若菜」早春に生える春の七草。
「衣手」着物の袖のこと。
「降りつつ」ひっきりなしに
ふること。



現代
訳

あなたのために、春の野原で「若菜を
摘んでいる私の着物の袖に、雪が」
降りかかっているなあ。

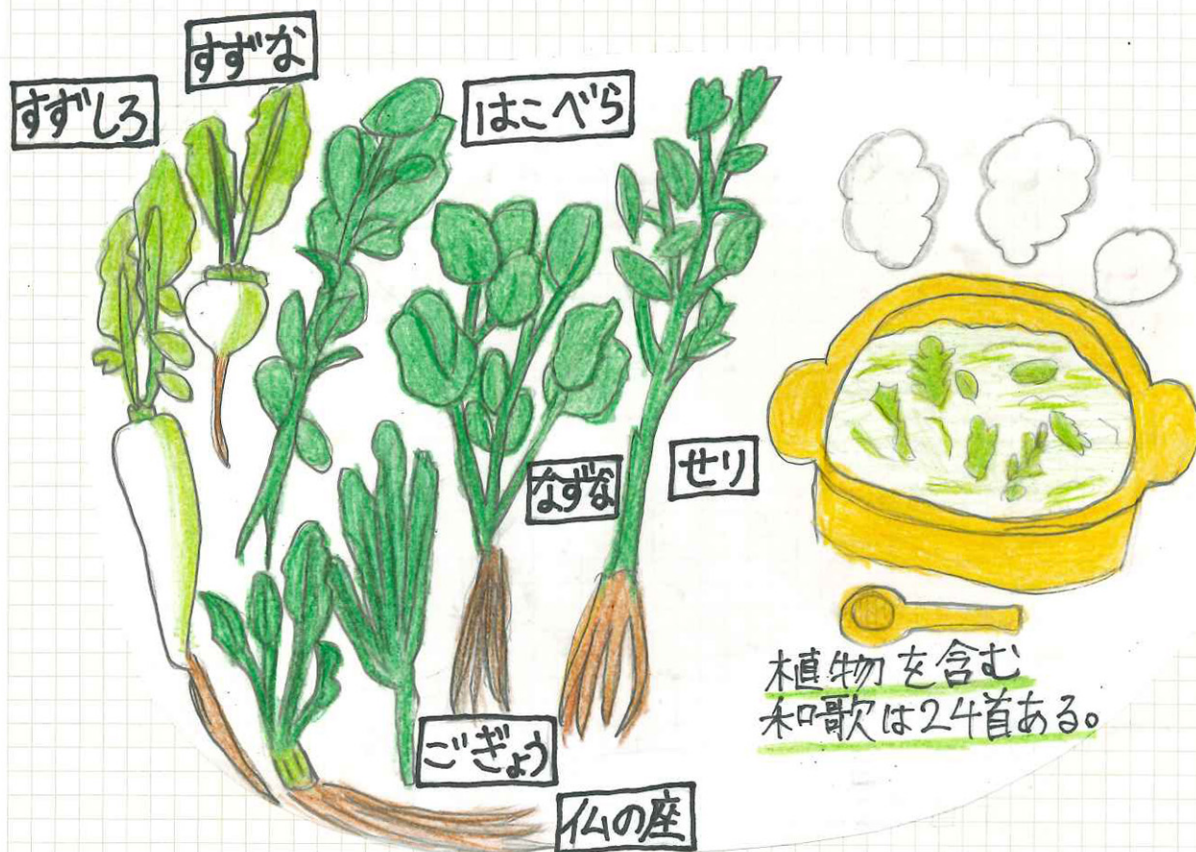


光孝天皇

歌人を調べる。

58代天皇で55さいで天皇になった。心優しく、優雅な人だった。

〔春の七草について〕
病気を予防するといわれている。七草がゆとして現在の正月明けに食べられる。



植物を含む
和歌は24首ある。



下の句



上の句



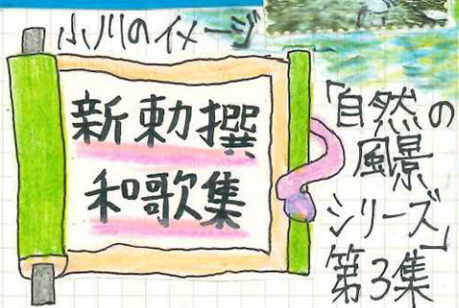
平安時代
から風鈴を
まよけとして
吊るすようになった。



風そよぐ
榎の小川の
夕暮は
みそぎぞ夏の
しるしなりける

古語辞典で"言周"る

「榎の小川」京都府の上賀茂
神社に流れる川。
「みそぎ」人形に切った糸氏を
川に流し身を清める
こと。
「しるし」しょうこ。



現代訳

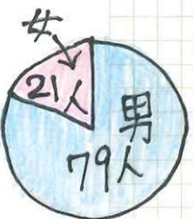
風がそよそよと、榎の葉にふいている。
榎の小川の夕暮は秋のようだが、みそぎ
が行われているということはまだ夏で
あるあかした。



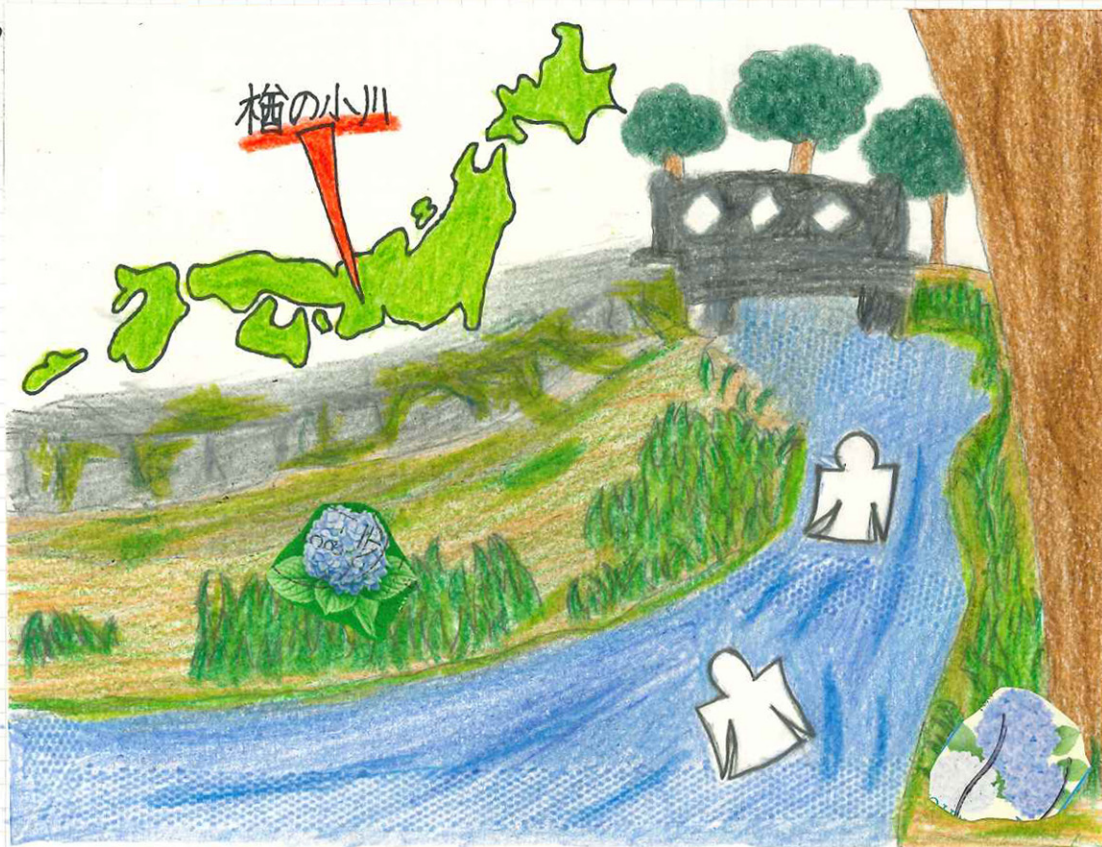
歌久人を言周べる。

本名は藤原家隆。新古今和歌集をえらんだひとり。落ち着いた人だった。

従二位家隆



100人のうち8割が男性である。



上加貝茂神社の風景



人形を川に流して厄を払う神事。

大國魂神社にて(府中市)



下の句



上の句



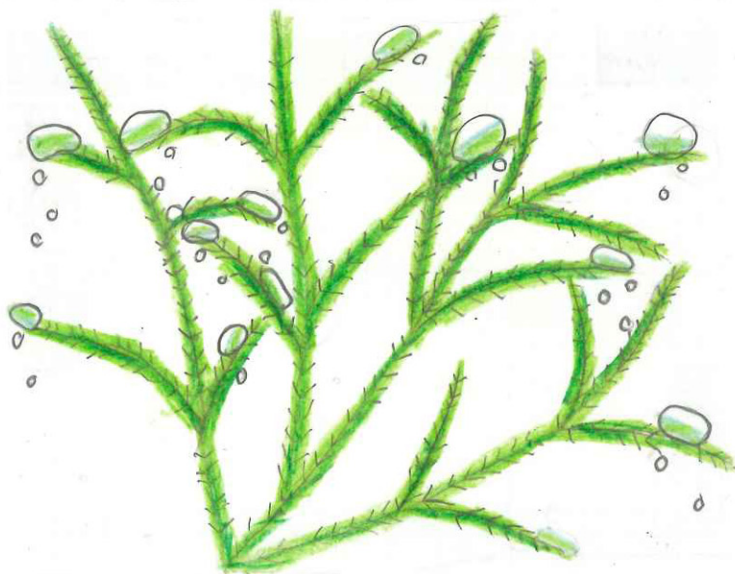
秋イメージ
「秋のグリーティング」秋の森と
ミカ

村雨の
露もまだ干ぬ
まきの葉に
霧立ちのぼる
秋の夕暮れ

古語辞典で「言周べる

「村雨」にわか雨のこと。
「まだ干ぬ」まだかわききって
いないこと。

「まき」ひのき、すき、まつなどの木。



夕暮れイメージ
「新日本の自然
シリーズ」



現代訳
通り雨が過ぎ、しずくがまたかわいて
いないまきの葉に霧が立ちのぼる。
秋の夕暮れの美しさよ。



歌人を調べる。

寂蓮法師

本名は、藤原定長。藤原定家の
いところで、定家が生まれたころ
出家した。

〔雨の表現が多い〕

「村雨の」「露もまだ干ぬ」「霧立ちのぼる」と
3つも水を表わす言葉をいれているのは
雨や水が美しいと感じているからだと思います。



身分 貴族 56人 皇族 10人 僧侶 12人 女官、女房 17人 他 5人



下の句



上の句



冬の花
山蒸花
サザンカ

朝ぼらけ
有明の月
見るまで
吉野の里
に
降る白雪

古語辞典で調べる

「朝ぼらけ」夜明け方。
「吉野」奈良県吉野郡
などの地。



現代訳
夜明け方、有り明け月のせいで「こんな
に明るいのか」と思ったが、吉野の
里一面に降っている白い雪だったのか。



坂上是則

歌人を調べる。

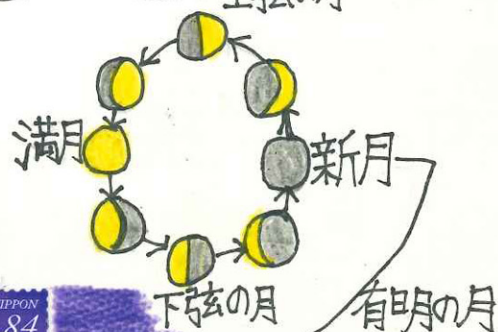
大和国(現代の奈良県)の役人をつとめたこともあって、けまり(昔のサッカー)の名人だった。

平安時代の夜は今よりもっと暗かったんだろう。



[有明月を調べる]

月は、日によって形がかわって見えます。夜中に出て、朝になってもしずまない、新月から下弦の月のことをいいます。上弦の月



「月」が詠まれている和歌は12首ある。

「どんな月か調べる。」

「月」6首

「有明の月」3首

「夜半の月」2首

(真夜中の月のこと)

朝ぼらけのイメージ

「自然の風景シリーズ」第3集 (10) 冬 1/2

私の住む町、府中市は奈良時代～平安時代に
武蔵野国の国府として栄えた町です。そして、
古くからの歴史ある建造物や遺跡が多くのこ
されている町です。



武蔵府中郷土かるた (昭和48年制作)は
市内小学3年生に配布されます。府中市の
歴史や文化、自然について歌われています。



田畑
しらべた
地検帳



七百余年
歴史の
板碑



えのきが
高い
三千人塚



いちばん
はじめに
武蔵の国府



地名に
のこる
井田是政



横山
党の
かけ仏



そら行け
みんなで
健康センタ―



すえ器が
片町
たてあな住居

府中市内の標識めぐりを楽しんでいます。

室町時代
和歌を札に書いた
歌かるたの登場。
江戸時代
木版刷りの
百人一首かるた
登場。
明治時代
競技かるたの成立。
大正・昭和時代
競技大会が全国
的に広まる。
現在
全国大会・名人位、
クイーン位戦が
開催かるた会100万人。



雲隠れにし 夜半の月影

めぐり逢ひて 見しやそ水とも分かぬ間に



百人一首 を調べてみて 和歌の中には
自然を愛している歌が多くありました。
昔の人々も自然を美しいと感じていたことが
伝わってきました。 今では、百人一首は形を変えて
競技かるた、郷土かるたなどとして人々に
楽しまれています。 百人一首の世界が愛され
ている理由は、今も昔も人々が心に感じる
思いが変わらないからだ と思います。

[参考文献] 図解全訳 古語辞典 (旺文社 2021年)

るるぶ・マンガとクイズで楽しく学ぶ! 百人一首 (JTBパブリッシング 2023年)
CD付き楽しく覚える! まんが百人一首 (ナツメ社 2017年)